

[野菜部門]

## 20. 準高冷地の秋どり栽培に適したリーキ品種「MEGATON」

[要約]

リーキ品種「MEGATON」は標高450m程度の準高冷地の2～3月播種、4～5月定植、11月収穫の秋どり栽培において、慣行品種「ポトフ」に比べて可販収量及び秀品収量が多い。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 高冷地研究室

[連絡先] 電話0867-66-2043

[分類] 技術

---

[背景・ねらい]

リーキは県内で産地化が図られているが、現在栽培されている慣行品種「ポトフ」は品質のばらつきが大きく、調整作業に手間がかかるとともに可販率が低いため収益も上がりにくい。そこで、準高冷地に適した収益性の高い品種の選定を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 準高冷地での栽培（2～3月播種、4～5月定植、11月収穫の秋どり栽培で、軟白長確保のため土寄せは梅雨明け、盆明けを中心に2～3回程度）において、「MEGATON」は慣行品種「ポトフ」に比べて可販収量及び秀品収量が多い（表1、写真1）。
2. 「Rally」の可販収量及び秀品収量は「MEGATON」に次いで高いが、夏期高温の年は腐敗病（軟腐症状）により生存株率が低下しやすい傾向にある（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 腐敗病（軟腐症状）の発生は減収の大きな要因となるため、土寄せ時や8月以降の薬剤散布により予防に努める。
2. 「MEGATON」の草姿はやや開張性で土寄せ時に葉鞘部に土が侵入しやすい。品質の低下や調整時の洗浄作業の負担を軽減するため、土寄せ時はマイカー線で葉身を持ち上げる等の対策を取ることが望ましい（H24主要成果）。

[具体的データ]

表1 各品種の収量性比較

品種	生存株率 <sup>z</sup> (%)	調整重 (g)	葉鞘径 (cm)	葉鞘長 (cm)	可販収量 (kg/10a)	可販率 (%)	秀品収量 <sup>y</sup> (kg/10a)	秀品率 <sup>y</sup> (%)
MEGATON (H26)	95.6	341	3.6	25.2	1,667	77.0	963	41.5
MEGATON (H25)	89.6	377	4.0	22.1	1,715	77.5	519	22.5
Rally (H26)	91.9	330	3.6	26.1	1,581	80.7	775	35.6
Rally (H25)	82.5	315	3.6	21.8	1,276	65.0	377	17.5
ポトフ (H25)	87.5	212	3.1	18.5	692	46.3	0	0.0

<sup>z</sup> 圃場で枯死したもの（主に腐敗病の発生による）を除いた値

<sup>y</sup> 岡山県リーキ出荷規格を元にH25は軟白長25cmかつ葉鞘径3.5cm以上のものを、H26は軟白長18cm以上かつ葉鞘径3.5cm以上のものを秀品とした

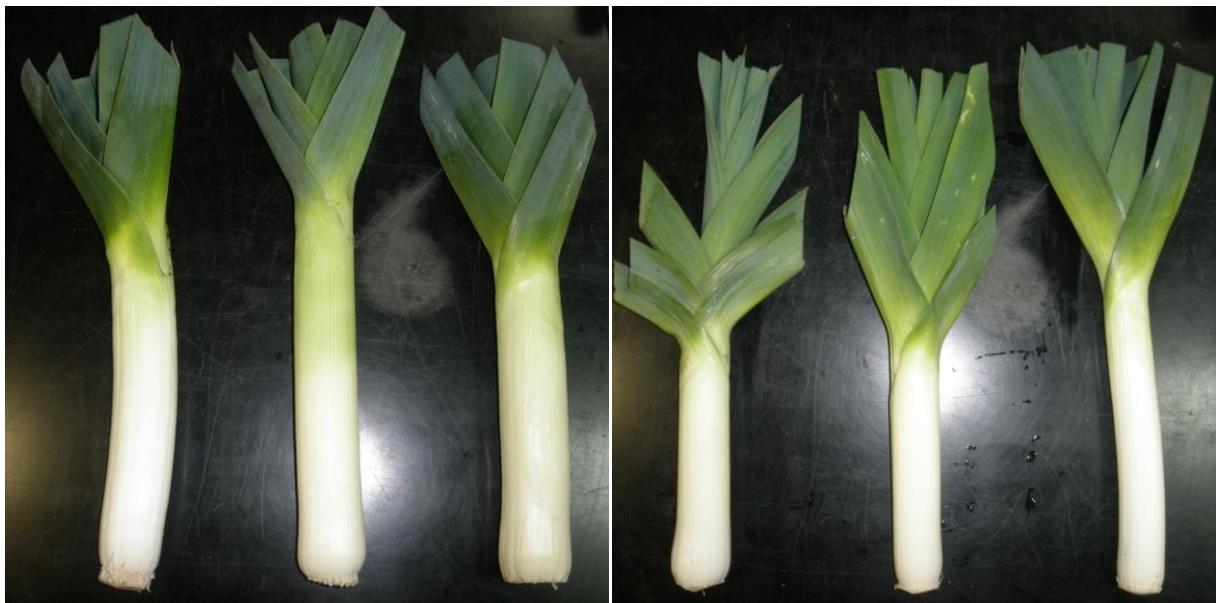


写真1 各品種の収穫物の外観（左：「MEGATON」、右：「ポトフ」）

[その他]

研究課題名：高冷地域に適した果樹・野菜・花品種の育成・選定と栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2011～2015年度

研究担当者：川村宜久、信岡佑太、岸本直樹

関連情報等：[平成24年度試験研究主要成果、45-46](#)